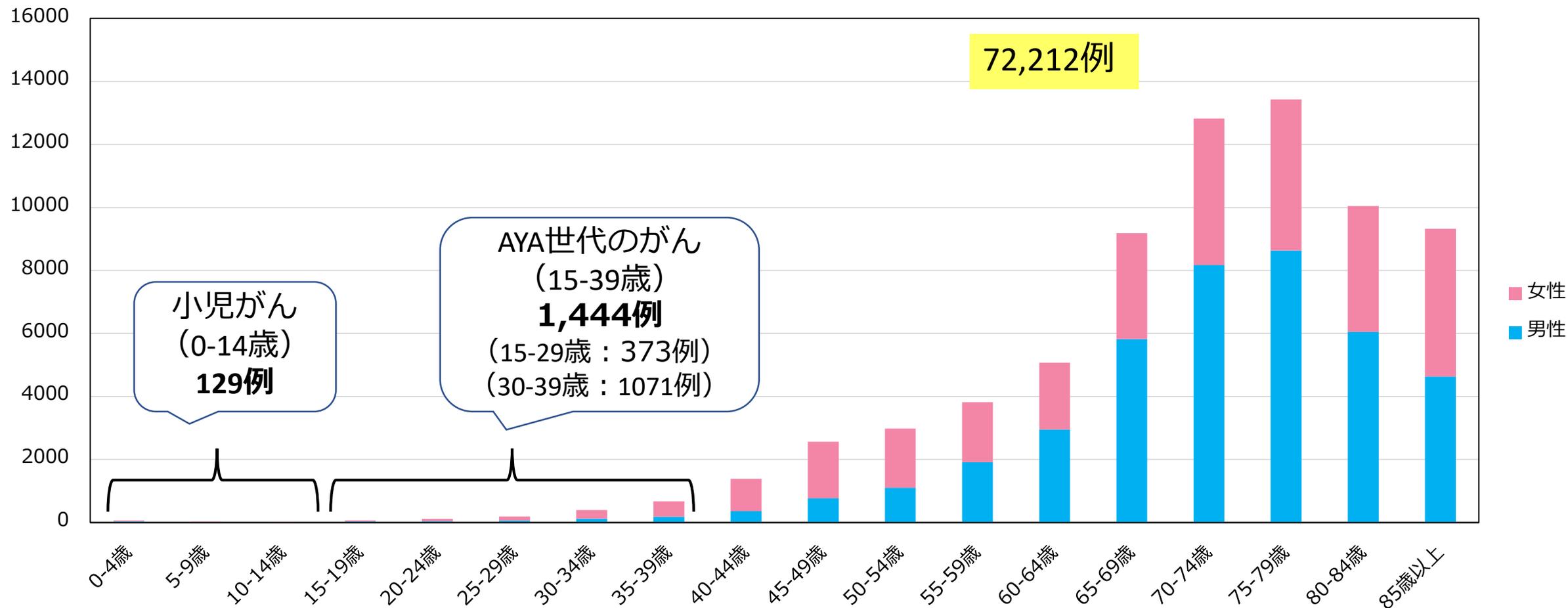


大阪府における1年あたり年齢階級別がん罹患数(新規患者数)

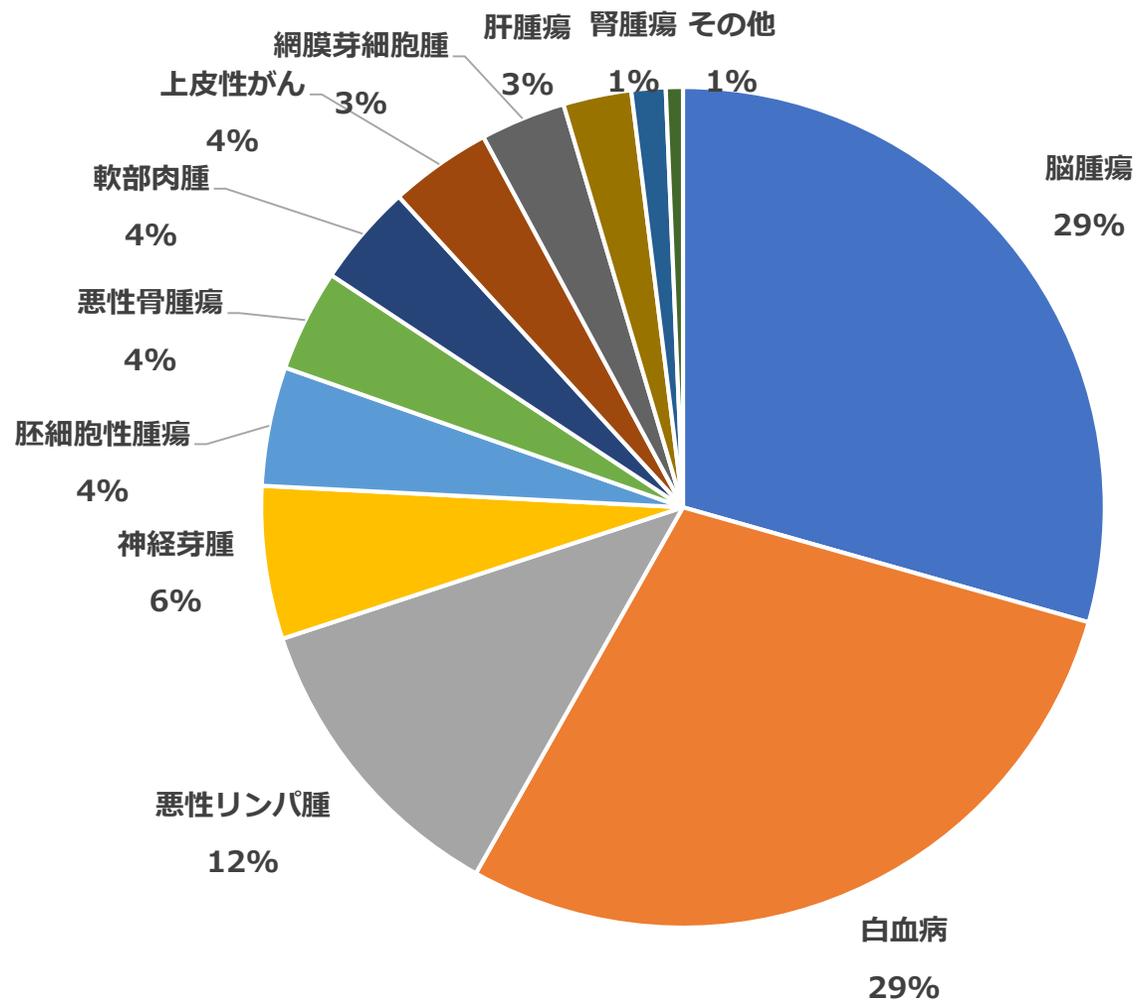
(2019年診断、大阪府在住、悪性のみ、上皮内がんを除く)



小児世代 = 全年齢の0.2%
AYA世代 = 全年齢の2.0%

大阪府における小児（0-14歳）のがん種別罹患割合

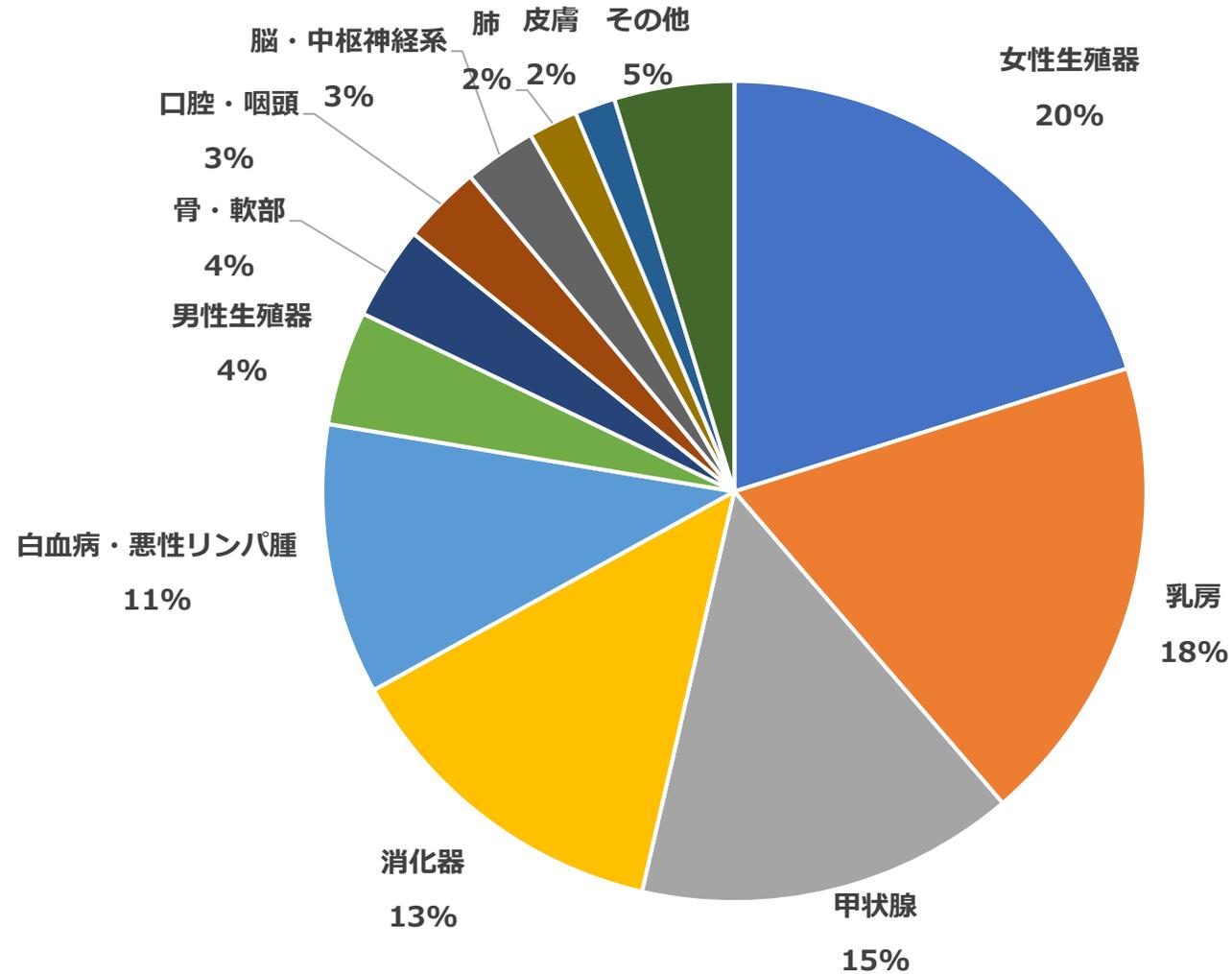
－合計153例（2019年診断、大阪府在住、悪性および良性・性状不明の脳腫瘍を含む。
国際小児がん分類（ICCC-3）に準じて分類）



出典：大阪府におけるがん登録第87報（一部改変、大阪国際がんセンターまとめ）

大阪府におけるAYA世代（15-39歳）のがん種別罹患割合

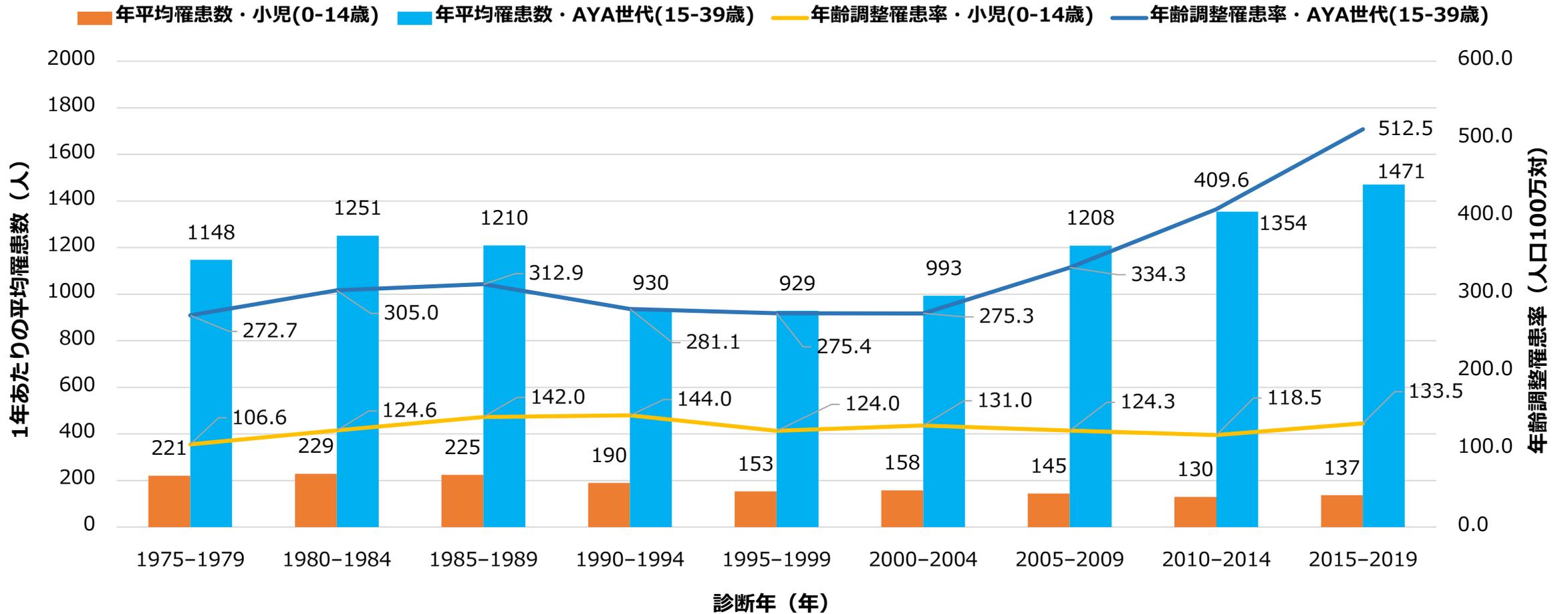
－合計1444例（2019年診断、大阪府在住、悪性のみ、上皮内がんを除く）



出典：大阪府におけるがん登録第87報（一部改変、大阪国際がんセンターまとめ）

大阪府における小児・AYA世代のがんの 1年あたりの平均罹患数・年齢調整罹患率の推移

(1975-2019年診断、大阪府在住、悪性のみ、上皮内がんを除く)



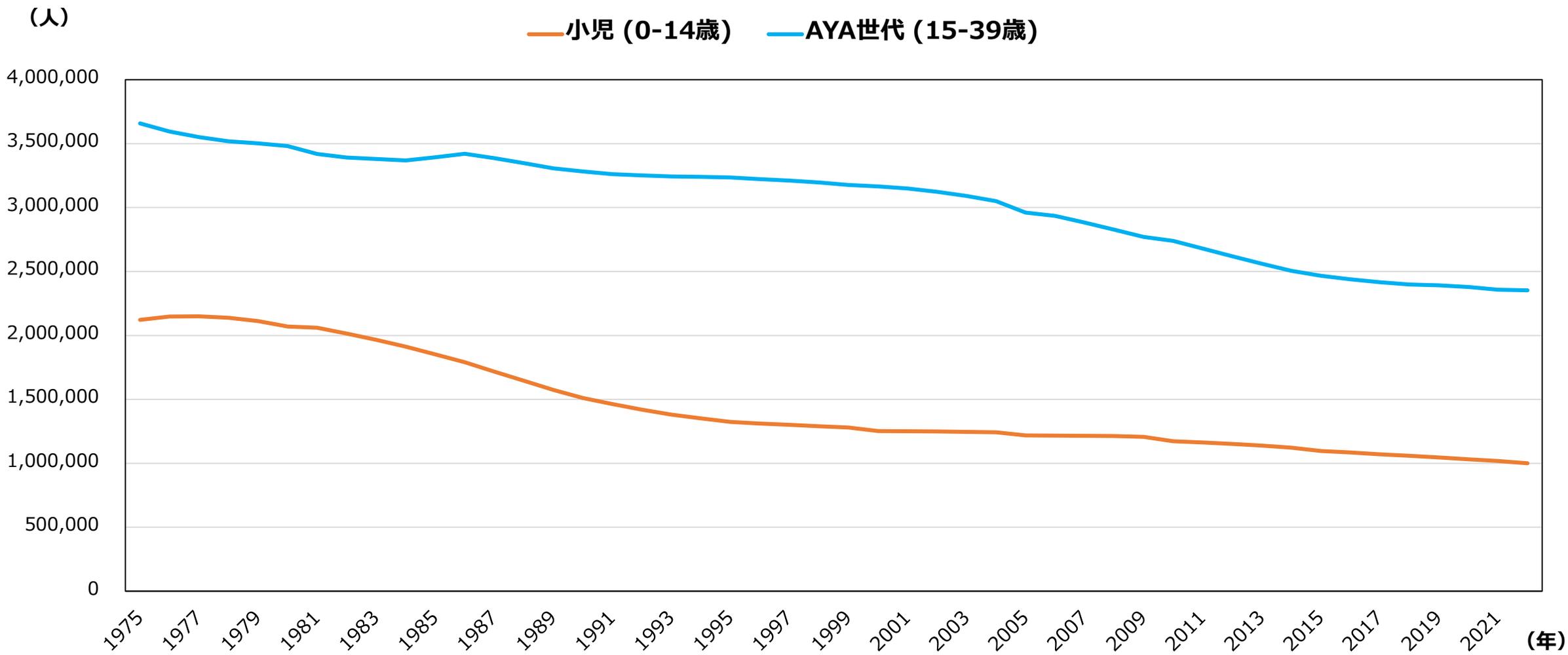
総人口出典: 1975年~1995年: 地域がん登録集計用人口データ

1996年~2022年: 人口推計 (総務省統計局)

罹患数出典: 大阪府におけるがん登録第87報 (一部改変、大阪国際がんセンターまとめ)

標準人口: 世界人口

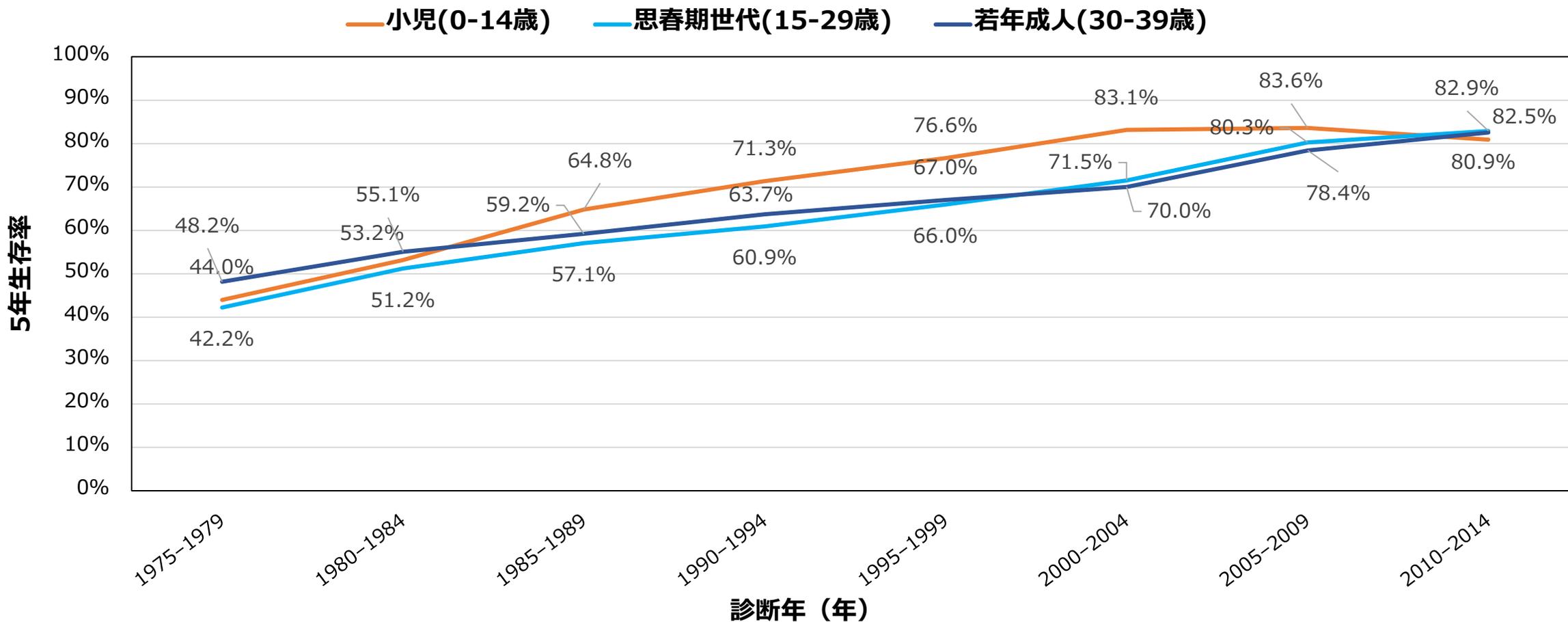
大阪府における小児・AYA世代の人口の推移 (1975-2022年)



総人口出典: 1975年~1995年: 地域がん登録集計用人口データ
1996年~2022年: 人口推計 (総務省統計局)

大阪府における小児・AYA世代のがんの5年生存率の推移

(1975年-2014年診断、大阪府在住、悪性のみ、上皮内がんを除く)



グラフは、大阪府における小児・AYA世代の全がん患者の5年生存率（Kaplan-Meier法）の推移です。小児・AYA世代のがんの生存率は、2000年代にかけて大きく改善し、近年では、全体として約8割の方が5年以上生存されています。

大阪府における小児・AYA世代の各がんの5年生存率

(2010年-2014年診断、大阪府在住、悪性のみ、上皮内がんを除く)

小児 (0-14歳)

	0-14歳
白血病	86.8%
悪性リンパ腫	88.1%
脳腫瘍	56.0%
神経芽腫	82.1%
網膜芽細胞腫	94.7%
腎腫瘍	94.4%
肝腫瘍	82.6%
悪性骨腫瘍	81.8%
軟部肉腫	62.9%
胚細胞性腫瘍	98.1%
全がん	80.9%

AYA世代 (15-39歳)

	15-39歳
口腔・咽頭	81.2%
胃	65.1%
大腸	75.3%
肝	44.4%
肺	54.4%
骨	70.7%
軟部	65.3%
乳	89.2%
子宮頸	87.7%
卵巣	85.1%
精巣	97.0%
脳・中枢神経	65.0%
甲状腺	99.8%
悪性リンパ腫	86.2%
白血病	76.3%
全がん	82.6%

各がん種別にみると、がんの種類、発症年齢によって生存率は大きく異なることがわかります。例えば、小児において、網膜芽細胞種、腎腫瘍、胚細胞性腫瘍の5年生存率は90%を超えていますが、脳腫瘍の生存率は56.0%と低くなっています。AYA世代において、甲状腺がんや精巣がんの5年生存率は、90%を超えていますが、肝がんや、肺がんなどは、低くなっています。また、白血病のように、同じがん種でも、小児よりAYA世代の方が生存率が低いものがあります。

大阪府における小児・AYA世代のがん患者の在宅死亡割合の推移

